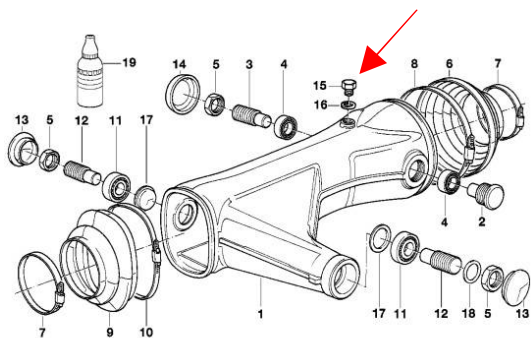
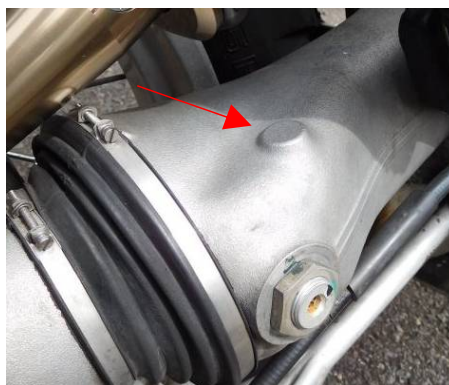


## エンジニアの葛藤 R100GS系の量産化

従来モデルを踏襲してオイルバス式にするか？ 開口部が増えオイル漏れのリスクを回避するためドライ設計か？ 量産化ギリギリまで悩んで悩んで設計責任者の胃はさぞ痛くなったことでしょう。商品化されたのはドライ式でしたが最終決断までどちらでも選べるようドレン部／フィルター部の金型設計、パーツリスト・イラスト、ドライブシャフトも量産型のラバーダンパーではオイルバスにはならないのでオイルバス専用品があったはずですが。牧神パーンはナイル川の畔で怪物に襲われた際、足の速い山羊に変身するか魚になってナイルに逃げるか悩んだ挙句、パニックに陥り上半身は山羊、下半身は魚になってしまったそうですがGS系もドライを選択したがギアボックスカバーまで手が回らずブリーザーが残ったままでオイルミストがシャフトにまわりお漏らしする事例もあるようです。ギアボックスを降ろした際はブリーザー穴をシール剤で埋める選択もあるようです。



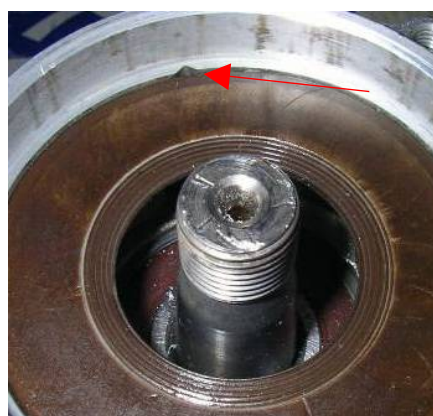
幻のフィルタープラグ



追加工すればオイル注入口に？



ドレン前提のスイングアーム型



ドライ用出力シールと三角通路

**CRIMECA**